

マンホールライニング工事特記仕様書

第1節 一般事項

1. 1 適用

1. 本特記仕様書は、マンホールのライニング工事に適用するものとする。
2. 本特記仕様書に特に定めのない事項については、長野県土木工事標準（共通）仕様書の規定、及び日本下水道事業団「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル」（平成 29 年 12 月）に準拠するものとする。

1. 2 適用工法

1. 本特記仕様書の適用工法は、塗布型D種防食被覆工法とする。

第2節 施工の条件

2. 1 工事概要

請負者は、工事の概要として次の事項を設計図書により確認を行うものとする。

- ① 工事名称
- ② 工事箇所
- ③ マンホール内面積
- ④ マンホール鉄蓋の種類

2. 2 施工現場の条件

請負者は、事前に設計図書に基づき、現地調査を行い、以下の施工現場の条件事項について確認を行うものとする。なお、確認の結果、設計図書等の内容と現地の状況が異なる場合は監督員に報告の上、その対処方法等について協議するものとする。

- ① 道路状況
- ② 道路使用許可条件
- ③ 周辺環境
- ④ 気象・気温
- ⑤ 施工時間規制
- ⑥ 排水条件
- ⑦ 流下下水量・水位
- ⑧ 施工箇所の劣化状況等
- ⑨ 足場設置の有無

第3節 施工計画

3. 1 施工計画書に定めるべき事項

請負者は、マンホールライニング工事の施工に当たって、工事着手前に調査を行い次の事項を明記した施工計画書を作成し監督員に提出するものとする。

- ① 工事概要
- ② 職務分担および緊急時の連絡体制
- ③ 工事記録写真撮影計画
- ④ 実施工程表
- ⑤ 施工工法
- ⑥ 主要機械
- ⑦ 主要資材
- ⑧ 材料品質証明の内容
- ⑨ 施工管理（建設副産物等）
- ⑩ 品質管理
- ⑪ 環境対策
- ⑫ 安全・衛生管理
- ⑬ 材料の運搬方法
- ⑭ 工事記録等の管理
- ⑮ その他、監督員の指示事項等

第4節 施工管理

4. 1 施工管理

1. 施工管理は、「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル」（平成29年12月）に準拠して行うものとする。
2. 請負者は、工事を安全に実施し、かつ品質を確保するために、次の事項について適宜、監督員と協議を行い十分な管理を行うものとする。
 - ① 工程
 - ② 安全・衛生
 - ③ 施工環境
3. 請負者は、現場状況等により施工計画に変更が生じた場合は、速やかに監督員と協議すると共に、施工計画書の変更を行うものとする。

4. 2 安全・衛生管理

請負者は、労働災害はもとより、物件損害等の未然防止に努め、労働安全衛生法、酸素欠乏症等防止規則、並びに市街地土木工事公衆災害防止対策要綱等の定めるところに従い、その防止に必要な措置を十分講じるものとする。

1. 下水道マンホールライニング工における安全管理

- ① 有資格者の適正配置
- ② 下水道管内作業に適した保護具の着用
- ③ 施工前の安全対策（情報収集）
- ④ 施工時の安全対策
- ⑤ 周辺環境への対策
- ⑥ 災害防止についての対策

2. 酸素欠乏、有毒ガスなどの安全処理

3. 供用中の施工における排水対策

4. 安全に関する研修、訓練

4. 3 施工環境管理

請負者は、施工中の環境に配慮するために次の環境対策を講じるものとする。

1. 工事広報

2. 粉じん（塵）対策

3. 騒音・振動対策

4. 臭気対策

第5節 施工

5. 1 一般事項

1. 作業にあたっては、近隣住宅への影響を考慮して、実施するものとする。
2. 請負者が監督員の指示に反して作業を続行した場合、及び監督員が事故防止上危険と判断した場合は、作業の一時中止を命ずることがある。
3. 作業終了後は、すみやかに使用機器、仮設物等を搬出し、作業場所の清掃に努めるものとする。

5. 2 防食被覆工

1. マンホール内面の清掃と既設コンクリートの劣化部分の除去を行い、断面修復等、ライニング工の前処理を行うものとする。
2. 断面修復工は、厚さ 30mm を想定しているが、現地確認の上、協議を行い決定するものとする。

3. 断面修復工は、腐食箇所をはつることによって失われた躯体の復旧として、断面修復を行う。断面修復工は下地清掃後、プライマーをコンクリート面に刷毛・ローラー等を用いて塗布し、プライマー塗布後、断面修復材をコテを用いて平滑に仕上げること。プライマーの材料はペタルス WP 同等品以上、断面修復材は超早強性無収縮タイプ断面修復材を使用するものとする。
4. 塗布型 D 種ライニング工は、VOC（揮発性有機化合物）消滅型のエポキシ系塗料にリサイクル製品のガラスパウダーと天然ガーネットを骨材として使用した無溶剤型の樹脂モルタルをマンホール内面にゴムベラ又はコテを用いて塗布する工法と同等のものとし、塗布厚は 2.5mm とする。
5. 「下水道コンクリート構造物の腐食抑制技術及び防食技術マニュアル（平成 29 年 12 月）」に基づいて行うものとする。
6. 施工においては、マンホールポンプの保守管理受託業者と打合せを行い、マンホールポンプの運転に支障のきたさないよう施工を行うものとする。
7. 施工箇所は、汚泥等によって不完全な施工にならないよう、あらかじめ、清掃するとともに、作業完了後も、残材等がマンホール内に残らないよう除去するものとする。

第 6 節 その他

6. 1 その他

その他特に定めのない事項については、すみやかに監督員に報告し、指示を受けて処理するものとする。